

2019年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号

03010101

1. 計画名称

茅野市環境基本計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	豊かな自然と人が調和する環境づくりを進める中で、各施策等は一定の成果を挙げている。世界各地で異常気象が頻発し、気候変動が人類共通の課題となり、未来を担う世代に持続可能な社会を引き継ぐために、市民団体等との連携を図り、各施策等の着実な推進及び普及啓発活動を継続していく。
今後の重点化施策番号	1	説明	未来を生きる世代へ自然の恵みを大切に受け継いでいくためには、各施策等を推進する市民団体等の担い手確保が大きな課題となっている。関連部署等との連携を図り、持続可能な社会づくりの課題解決に向けた取組手法を検討していく。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	自然の恵みを大切に受け継ぐまち ー良好な自然環境の確保ー	順調	施策の柱1~2の指標は自然の恵みを大切に受け継いでいくためのそれぞれの施策の担い手となりうる市民の数だと考えており、関係機関との連携を密にしたことで概ね目標を達成できた。	人口減に向かう社会において、さまざまな分野において市民団体の中核世代が高齢化している。次世代の育成、引継が大きな課題である。	市民団体と担い手確保に向けた取組手法を検討し、新たな担い手を確保する。
2	安全で人にやさしいまち ー安全な生活環境の確保ー	順調	公害苦情処理の内、軽微なものについては即時解決させ、長引きそうなものについては次年度に持ち越さぬよう、年度内解決を目標に取り組んでいる。水質検査におけるBODは、環境基準達成率100%である。	顔見知りであることによる匿名での苦情や、空き家や空き地など所有者が不在の土地を発生源とする苦情の増加が課題となっている。	近所同士のトラブルにおいては、申立者の言い分だけを聞くのではなく実際に状況を確認し、公平性のある対応に努めなくてはならない。
3	うるおいとやさしさのある快適なまち ー快適環境の確保ー	おおむね順調	可燃物・資源物を減量化し、適切に処理するための住民への周知や、市民活動付団体と連携した取り組みを行うことなどを継続して行っている。また、環境館での普及啓発も3Rの推進のための重要な取り組みである。	排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行うことが必要である。	ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を行う。
4	環境への負荷が少ないまち ー循環型社会の構築ー	-	計画の性質上、具体的な目標指標は設定せず		
5	地球環境にやさしいまち ー低炭素型まちづくりー【茅野市減CO ₂ 計画】	おおむね順調	市民団体との積極的な連携により、地球温暖化対策関連のイベントを通じて市民への省エネ意識の向上を呼び掛けることができた。公共施設の省エネについては、計画通りに成果が上がっている。	環境マネジメントシステム補助件数が伸び悩んでいる。事業者へのPRにより普及促進していく必要がある。市民団体との連携により地域における省エネ意識のさらなる向上を図る必要がある。	・県産業環境保全協会及び商工会議所と連携してエコアクション21セミナーを開催しPRを図る。 ・市民団体との連携強化によりイベント等の定期的な開催・内容の充実 ・公共施設所管部署との連携を密にし、エネルギー使用量の速やかな現状把握及び啓発
6	協働で環境づくりに取り組むまち ー連携・参加と環境学習ー	おおむね順調	各種市民団体との連携・協働による取組の推進により、環境美化活動を例年どおりに維持することができている。また、環境情報発信を増やしたことが各種行事の参加者等に繋がっている。	各種市民団体の役員の担い手確保及び情報発信の効果的な手段	市民・事業者・滞在者・市の各主体が参加し、協働で環境保全に取り組むために、活動への協力呼びかけを継続していく。

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」